

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	元永 圭一	生徒指導主事	寺西 学
取組事例名	『きずなの木へ実をつけよう』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
学校全体で人権意識を高める活動を推進することで、「めあてについて、自分を見つめ振り返り、どうしたらより良くできるようになるかを見つけようとする児童」を育成していく。	・【1・2年生】友達と仲良くし、助け合うことができる。 ・【3・4年生】相手のことを思いやり、進んで行動することができる。 ・【5・6年生】相手の立場や気持ちになって自ら行動することで、自己の成長を実感することができる。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
1 昨年度の「思いやりの木」を振り返り、本年度の活動について話し合った。 ・昨年度の活動は、教師主導型で生徒指導部が中心となって、「思いやりの木」というタイトルや、掲示場所、配布枚数などを決めていた。 ・児童委員会に、本年度の活動はどうするかを相談した。児童たちは、「名前を新しく決めたい。」「代表委員会で話し合いたい。」「書いたものを入れるポストを作りたい。」など積極的に話し合っていた。 2 ポストに入った「きずなの木」の実をどうするか話し合った。 ・「全校の児童に紹介したい。」ということで、掲示場所は「中央階段の横がいい。」「毎日、少しずつ児童委員会がお昼の放送で紹介したい。」という意見が出た。 ・児童委員会の話し合いの結果、中央階段横に掲示し、毎日のお昼の放送で2枚分紹介している。	児童にめあてをもたせるために ・各クラスに、この取組のタイトルを考えてもらい、代表委員会で話し合い決定した。 児童の意欲を高めるために ・「きずなの木」を中央階段前に設置したことで、通るたびに児童の目に入るようにした。各クラスに「きずなの木」の実の紙を数枚配布しいつでも書けるようにし、書いたときにすぐ入れられるよう手作りポストを校舎に一つずつ設置した。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・毎日のお昼の放送で児童委員会の児童が放送で2枚分紹介したり、学校だよりで「きずなの木」の取組を紹介したりしている。放送で紹介された児童は、とても嬉しそうな表情で聞いている。



3 成果と課題

- はじめの頃は、自分にとって嬉しかった「〇〇を貸してくれた。」や「〇〇を持って来てくれた。」という内容が多かったが、「〇〇さんが、トイレのスリッパを全部そろえていたので、見習いたいと思った。」「6年生が休憩時間に1年生と一緒に遊んでいるのを見て、6年生は優しいと思った。など、他者を肯定的に見ることもできるようになってきた。
- 記入する児童が徐々に固定的になってきている。全校での取り組みにしていきたい。